6　　の約束 　文法　動詞④　変格活用

むかし、なりける人、おほうわのに、大和の国にりけり。といふわたりに、①げなる人の家より、女どもわらはべⓐで来て、この行く人を見る。きたなげなき女、いとをかしげなる子を抱きて、門のもとに立てり。このの顔のいとをかしげなりければ、目をとどめて、「②その子、こちて」といひければ、この女寄り来たり。近くて見るに、いとをかしげなりければ、「ゆめ、こと男したまふな。③われにあひたまへ。おほきになりたまはむほどに参り来む」と言ひて、「これを形見にⓑしたまへ」とて、④帯を解きて取らせけり。さて、この子のしたりける帯を解きて取りて、ⓒ持たりける㋐文に引き結ひてもたせてⓓ往ぬ。これをこの子は忘れず思ひ持たりけり。⑤男ははやう忘れにけり。

語注

内舎人…省に属する官職の名。性格、才能、のすぐれた者を選んだ。

おほうわの御幣使…大和の国（現在の奈良県）にあるに供物を奉納するための使者。以下、「井手」は京都南部の、奈良への道中の地名。

【原文】

むかし、なりける人、おほうわのに、大和の国にりけり。といふわたりに、げなる人の家より、女どもわらはべで来て、この行く人を見る。きたなげなき女、いとをかしげなる子を抱きて、門のもとに立てり。このの顔のいとをかしげなりければ、目をとどめて、「その子、こちて」といひければ、この女寄り来たり。近くて見るに、いとをかしげなりければ、「ゆめ、こと男したまふな。われにあひたまへ。おほきになりたまはむほどに参り来む」と言ひて、「これを形見にしたまへ」とて、帯を解きて取らせけり。さて、この子のしたりける帯を解きて取りて、持たりける文に引き結ひてもたせて往ぬ。これをこの子は忘れず思ひ持たりけり。男ははやう忘れにけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　　　〕であった男が、御幣使としての旅の途中で、かわいらしい（＝〔　　　　　　　　〕）子を見かけ、成長したら自分と結婚する約束をして、〔　　　〕を交換した。しかし、この子は覚えていたが、男はこの約束を〔　　　　　〕てしまった。

問二　波線部㋐の意味を選べ。〈3点〉

ア　手紙　　イ　文章　　ウ　漢詩文　　エ　供物

〔　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓓの活用の種類と活用形を答えよ。〈2点×4〉

ⓐ〔　　　　　 　活用　　　形〕　ⓑ〔　　　　　 　活用　　　形〕

ⓒ〔　　　　　 　活用　　　形〕　ⓓ〔　　　　　 　活用　　　形〕

問四　チェック問題　動詞④　変格活用

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| あり | ぬ | す | 来 | 基本形 |
|  |  | （す） | （来） | 語幹 |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
| 行変格活用 | 行変格活用 | 行変格活用 | 行変格活用 | 活用の種類 |

⑴　次の活用表を完成させよ。〈1点×4〉

⑵　次の傍線部の動詞の活用形を答えよ。〈2点×3〉

1　右大将藤原のといふ人、いまそがりけり。（伊勢物語）

2　おのれ酔ひたること侍らず。（徒然草）

3　男女死ぬる者数十人。（方丈記）

1〔　　　　　〕　2〔　　　　　〕　3〔　　　　　〕

問五　傍線部①・③の解釈として最も適当なものを選べ。〈3点×2〉

①　　ア　裕福そうな家　　　イ　整った様子の家

ウ　質素にみえる家　　エ　高貴な感じの家

③　　ア　私に贈り物をください　　イ　私に誓ってください

ウ　私と遊んでください　　　エ　私と結婚してください

①〔　　　〕　③〔　　　〕

問六　傍線部②を現代語訳せよ。〈7点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部④とあるが、この時の「男」の説明として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　自分と結婚の約束をした証拠を残そうとしている。

イ　児に再会するまで生きていてほしいという願いをこめている。

ウ　貧しい暮らしの足しにしてほしいと思っている。

エ　約束を忘れないようにと母親に念押しをしている。

〔　　　〕

問八 傍線部⑤とあるが、「男」は何を忘れたのか。十字以内で答えよ。〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問一　内舎人　をかしげなる　帯　忘れ

問二　ア〈3点〉

問三　ⓐ＝カ行変格活用・連用形　ⓑ＝サ行変格活用・連用形〈2点×4〉

ⓒ＝ラ行変格活用・連用形　ⓓ＝ナ行変格活用・終止形

問四　⑴〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| あり | 往ぬ | す | 来 | 基本形 |
| あ | 往 | （す） | （来） | 語幹 |
| ら | な | せ | こ | 未然形 |
| り | に | し | き | 連用形 |
| り | ぬ | す | く | 終止形 |
| る | ぬる | する | くる | 連体形 |
| れ | ぬれ | すれ | くれ | 已然形 |
| れ | ね | せよ | こ（こよ） | 命令形 |
| ラ行変格活用 | ナ行変格活用 | サ行変格活用 | カ行変格活用 | 活用の種類 |

⑵　1＝連用形　2＝未然形　3＝連体形〈2点×3〉

問五　①＝イ　③＝エ〈3点×2〉

問六　その子を、こちらへ連れて来い〈7点〉

問七　ア〈8点〉

問八　児との結婚の約束。（9字）〈8点〉

【現代語訳】

昔、内舎人であった人が、犬神神社の御幣使として、大和の国へ下った。井手という（ところの）あたりに、整った様子の家から、女たちや子どもが出てきて、この通る人を見る。見苦しい感じのしない女が、とてもかわいらしい子を抱いて、門のところに立っている。この子どもの顔がとてもかわいらしかったので、（内舎人なりける（内舎人であった）人が）目をとどめて、「その子を、こちらへ連れて来い」と言ったので、この女は寄ってきた。（内舎人なりける（内舎人であった）人が）近くで見ると、（児（子ども）は）とてもかわいらしかったので、「決して、他の男と結婚しなさるな。私と結婚してください。（あなた〔＝児〕が）大きくなりなさる頃に参ろう」と言って、「これを形見にしてください」といって、帯を解いて与えた。そして、この子のしていた帯を解いて受け取り、持っていた手紙に結んで持たせて帰る。これをこの子は忘れずに思って心に留めていた。（ところが）男はなんと忘れてしまったことよ。

【補充問題】

問１　「目をとどめて」（４行目）とあるが、「内舎人」はなぜそのようにしたのか。簡潔に説明せよ。

問２　「これ」（７行目）の内容として最も適当なものを選べ。

ア　内舎人が、女と児の容姿をほめたたえたこと。

イ　内舎人と児とが、帯の交換をして結婚の約束をしたこと。

ウ　児が、内舎人に結婚の約束を記した手紙を渡したこと。

エ　内舎人が、児との約束を裏切ること。

【補充問題解答】

問１　女の抱いていた子の顔がたいそうかわいらしかったから。

問２　イ